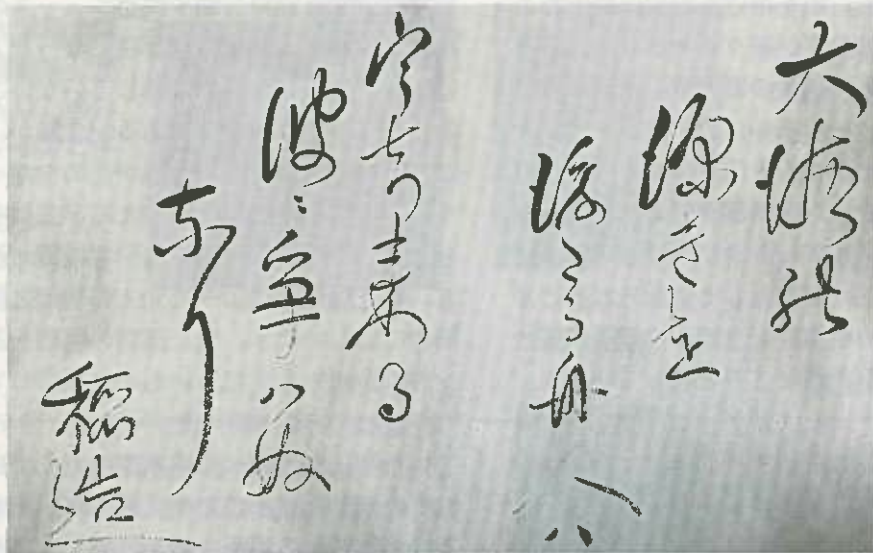


十和田市立 新渡戸記念館だより



大海の深さを渡る舟人ハ
うち来る波ニ争ハぬなり

稲造



新渡戸稲造

日枝丸乗船者サイン帖に残された『新渡戸稲造博士の書』

昭和8年(1933)新渡戸稲造博士が、カナダへむかう客船・「日枝丸」(ひえまる)に乗船したおり、サイン帖に残された書をご紹介します。

が横浜より乗船した日本郵船「日枝丸」の乗船者サイン帳に残されたもので、これが書かれた背景を考えるとその意味の深さに心打たれます。

◆書かれた背景

第2次世界大戦前夜、国際的非難の集まるなか、満州(中国北東部)での中国の主権を認めず軍を駐留させつづけた日本は、昭和8年2月ついに国際連盟を脱退。国際社会の中で孤立する道をあゆみ始めていました。そのような状況のなか、同年8月カナダのバンフで行われた「第五回太平洋会議」(太平洋問題調査会で隔年に開催していた会議)に、新渡戸稲造は少しでも日本の孤立化を防ぎ国際社会での協調を訴えるという志をもって出席したといえます。博士はバンフにむかう列車の中でひどい腹痛に襲われ、その後も体調が優れない中、開会の晩餐会では日本代表としての演説を成功させました。しかし会議終了後1ヵ月程で病に倒れ、10月15日カナダビクトリアのジュビリー病院で息を引き取りました。

◆写真と書をご紹介します

写真と書は、昭和8年当時の「日枝丸」船長・高橋重彦氏が新渡戸稲造博士から乗船の記念に書いてもらったもので、所有者は重彦氏の長男・重憲氏の奥様の高橋敏子様。敏子様の義妹にあたる五十嵐明子様(旧姓立石・三本木高校の教師を父に中学、高校時代十和田市在住)のご協力でこの度紹介させて頂ける事になりました。

この書は、その太平洋会議に出席するために稲造博士



船上での稲造博士と高橋重彦船長(博士の右側)。



「日枝丸」と船長・高橋重彦氏

新渡戸稲造 (1862~1933)

岩手県に生まれる。教育者、農学者であり日本の先駆的国際人。一高校長、東京女子大初代学長等勤め初の日米交換教授に。国際連盟事務次長、太平洋問題調査会理事長等も勤め様々な働きで国際平和に貢献。英文での著作『武士道』等を通し日本文化を西洋に伝えた。



五千円札の肖像で有名。(新銀行券発行記念シールより)



太素顕彰会理事
十和田市経済部長 沼宮内 学

新五千円札が発行された当時私は商工観光課長でした。市を挙げてお祝いや街おこしをすべきとの声が続々とあがり、稲造博士の思い出を語る会をはじめ銅像の寄贈や、民間における様々の商品開発等それら一つ一つに対応するため、大変な忙しさでした。これらが「五千円札のふるさと」の試みとして全国の話題になった事は確かでした。温厚な新渡戸憲之前々館長もエネルギーに走り回られ、行政と一体となって成功させた事業として生涯忘れることはないでしょう。新体制の新渡戸記念館に市経済部長として参画するのも深い縁があればこそと思っています。



太素顕彰会理事
十和田市教育委員会委員長 高屋 光夫

記念館が体制替えをし、記念館だよりで資料公開や関連ニュースの紹介等をして、より身近な存在になったようで大変喜んでます。以前は館長が常勤していないこともあって、市のルーツであり誇りでもある記念館が、どちらかといえば二度目の足は遠のくの感が否めなかったように思います。この度専任の館長に加えて学芸員も配置されたこともあり、今後は教育委員会や学校等と連携して、スライド、紙芝居化等によって先人の功績と開拓精神の昂揚に努めてほしいです。また運営の基盤を固めて、各種イベントの企画もしてほしいものと期待しています。

9月の新渡戸記念館ニュースより 新渡戸記念館なぜ？なに？質問室

9月はたくさんの小学生が社会科見学に来観します。そこで9月の記念館ニュースでは小学生から多かった質問に対して、わかりやすく説明しました。このうちいくつかのQ&Aを掲載します。

★新渡戸傳 はどんなひと？

Q. 新渡戸傳は、どんなことをした人ですか？
A. 新渡戸傳は、息子の十次郎、孫の七郎と協力して当時あまり人の住めなかった三本木原（現在の十和田市中心部）に水を引いて稲生川をつくり、たくさん田畑が作れるところになりました。そしてひろい道路が碁盤の目のようにたてよこにはしている大きな町もつくりました。それが現在の十和田市のもとです。そのほかにも町にひとが集まるように色々な産業をおこしました。



当時の都市計画図

Q. 新渡戸傳は、なん歳の時に稲生川を完成させたのですか？
A. 傳は安政2年（1855）63歳の時稲生川をつくりはじめて、4年後の安政6年（1859）に完成させました。その時傳は67歳でした。みなさんのおじいちゃん、おばあちゃんと同じくらいの時に稲生川を完成させています。

★稲生川ってどんな川？

Q. 稲生川を作る工事は二つのトンネルを掘らなければならない大変な工事だったとききました。どうしてそんな大変な工事をしなければならなかったのですか？
A. 三本木原は台地で、傳が稲生川の水を引こうと考え

ていた奥入瀬川は、三本木原の近くでは低いところを流れていました。そこで奥入瀬川が三本木原より高いところを流れている場所をさがして、そこから稲生川の水路をつくっていくことにしました。そして奥入瀬川の上流にある山を掘ってトンネルをつくり、そこに水路を通すことで水が高いところから三本木原に流れ込むように稲生川をつくりました。そのために二つのトンネルを掘らなければならなかったのです。



三本木原と奥入瀬川の高低差図

Q. 稲生川の長さは、どのくらいあるのですか？
A. 昔、傳が作った時の稲生川は、法量の取水口から十和田市の高清水付近までの約12キロメートルの長さでした。息子の新渡戸十次郎がさらに太平洋まで水路を伸ばそうと計画をたてましたが、十次郎が亡くなってしまったためにできませんでした。その後十次郎の計画は国の事業として行われて、現在は太平洋まで届いていて、延長約71キロメートルにもなります。

稲生川は、たくさんの水路にわかれて、広い面積の水田を潤しています。



九月の新渡戸記念館ニュース

11月の新渡戸記念館ニュースより

太素塚再発見!! その1 顕彰堂

木々が生い茂る太素塚の境内。その右奥に「顕彰堂」があります。みなさんはこのお堂に誰が祀られているかご存じでしょうか?

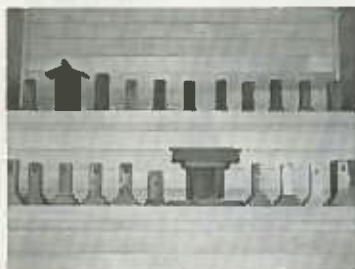
11月の記念館ニュースでは、この顕彰堂にスポットをあててご紹介しました。



顕彰堂

◆顕彰堂のいわれ

明治5年(1872)新渡戸七郎(傳の嫡孫)は安野清兵衛、高岡権十郎など当時の三本木村有志と協力して父十次郎並びに新渡戸一族、三本木原開拓協力者のためにお位牌堂の「照瑤堂」を建立しました。(「照瑤」は十次郎の字)その後昭和58年(1983)市内有志より新しいお堂が寄進され、「照瑤堂」は名称も「顕彰堂」となって生まれ変わり現在にいたっています。



顕彰堂の内部



現在も保存されている照瑤堂

◆顕彰堂内部

「新渡戸稲造の養父・太田時敏のお位牌」



このお位牌は、新渡戸稲造の養父太田時敏のもので、お位牌表側には「太田時敏霊神」、裏側には命日が「大正四年一月二十日」と書かれています。そして覆いの裏側に「昭和八年五月十九日於三本木 新渡戸稲造書」とあります。

「越山霊神」



「越山霊神」木札裏面

「越山霊神」とは三本木原開拓に大きく貢献した土木技術者で、穴堰普請の総頭取をつとめた八重樫吉助の事です。吉助の技術のおかげで二つの山を越える事ができたという気持ちを込めて、新渡戸七郎が明治6年(1873)この祭文を書き「越山霊神」として、顕彰堂の中に祀っています。



十一月の新渡戸記念館ニュースパネル

10月の新渡戸記念館ニュース

三本木原 今・むかし

10月の記念館ニュースでは、大正15年出版の写真集『十和田湖と現代の三本木町写真帖』などから、明治大正期の写真を現代の写真と比較させて紹介しました。この企画は好評で東奥日報に12回連載で掲載されました。今回はその中から太素塚の今と昔をご紹介します。

★「太素塚」の今・むかし



この写真は、市内西十二番町にお住まいの松浦龍一郎氏よりご寄贈頂いたもので、時代ははつきりしません。明治の終わり頃と思われる。



現代の太素塚の写真。今月には道路が一部カラー舗装され、稲造博士の蔵書印、稲生川工事の道具などをモチーフとしたモニュメントが置かれます。



十月の新渡戸記念館ニュースパネル

— 関 連 情 報 —

●今年度全国博物館大会で新渡戸稲子前館長が顕彰されました

今年10月26日・27日に弘前で行われた第43回全国博物館大会で、当記念館の新渡戸稲子前館長が日本博物館協会顕彰者として表彰されました。日博協顕彰者は、「15年以上博物館役員として勤続された方や、顕著な活躍が認められた方」が該当するものです。新渡戸稲子前館長は33名の顕彰者代表として日本博物館協会徳川義寛会長から賞状と記念品を授与されました。またこの事が大きく東奥日報紙上で報道されました。



徳川会長より賞状を授与される新渡戸稲子前館長 写真は東奥日報社提供

●9月30日から11月30日までの来館小学校

<十和田市>西小学校・深持小学校・南小学校・大不動小学校・洞内小学校<八戸市>白銀南小学校・函南小学校城下小学校・西園小学校・美保野小学校<三沢市>天ヶ森小学校<天間林村>東小学校<上北町>上北小学校<南郷村>島守小学校<南部町>向小学校



熱心に見学する小学生のみなさん。

●青森朝日放送(1/2朝7:30放送予定)・TBS放送(1/7朝7:30放送予定)で三本木開拓紹介

来年1月に青森朝日放送『駒街道とわだ・新渡戸三代の開拓魂』・TBS全国放送(ATV)『笑顔が一番』の「駒フェスタ」で三本木原開拓が紹介されます。その解説に新渡戸館長が出演することになりました。青森朝日放送のキャスターは今年のミス十和田・姥神さん。TBSは金八先生の「おまわりさん」で有名な県出身タレント鈴木正幸さん。楽しい内容が期待されます。

— 活 動 報 告 —

●館長各地で三本木原開拓について講演

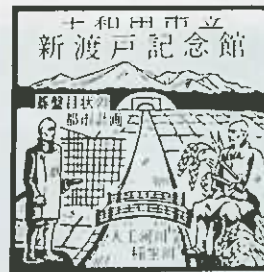
新渡戸館長を講師とした講演会が10・11月に3回

開かれました。三本木原開拓の歴史を理解してもらおうという企画で演題は、「三本木原開拓」(青森市社会教育センター・10/20)、「三本木原開拓よもやま話」(十和田市民図書館・11/9)、「三本木原開拓までの道のり」(十和田市校長会・11/14)でした。

●「東奥日報」に10月の記念館ニュース「三本木原今・むかし」が12回連載として掲載

今年11月25日から12回にわたって、10月の記念館ニュース「三本木原 今・むかし」が連載されました。同企画は、大正15年出版の写真集「十和田湖と現代の三本木町写真帖」に掲載されている写真を中心に、現代の写真と比較しながら当時の様子を分かりやすく解説したもので、新聞では記念館ニュースで発表したものより多くの写真を紹介し解説も詳しく、佐々木学芸員の記名記事となっています。本紙3ページに10月の記念館ニュースが掲載されていますのでごらんください。

●記念館スタンプが更新されました



左は稲生川を中心に新渡戸傳と稲子・十次郎の像を配したデザイン。右は新渡戸家の家紋を使用したもの。

●29点の絵図面を裏打ち作業中

本年度初めに裏打ちされた2点の絵図面に続き、29点の開拓関係絵図面を裏打ち作業中です。今回裏打ち中の絵図面は、周辺集落の往時を偲ぶことができる資料が中心です。資料的な重要さに加えて描かれた当時の美しい色を残すものも多くありますので、裏打ちが完了し皆様にお見せできる日を楽しみにしています。

●太素塚元朝参り

毎年12月31日から年が改まる1月1日までの間、太素塚は元朝参りの参拝客でにぎわいます。太素顕彰会のスタッフ一同がこの日参拝者の方々に甘酒等のサービスをしています。どうぞお気軽においで下さい。

— 編 集 後 記 —

師走となりましたが、本年最終の第3号を発刊することができました。より一層内容を充実させ、読むことが待たれるようにスタッフ一同努力して参りたいと思います。どうぞ皆様良いお年をお迎え下さい。

発行 十和田市立新渡戸記念館
 ☎034 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 印刷 有限会社 岩間印刷所